



株式会社ロックオン
2014年9月期 決算説明会資料

2014年11月20日

東証マザーズ：3690

① 決算概要

② 広告プラットフォーム事業

③ 商流プラットフォーム事業

④ 2015年9月期 業績見通し

⑤ 総括

①

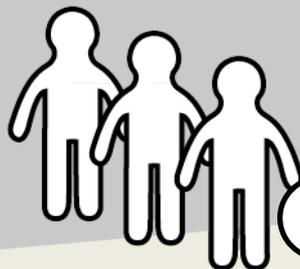
決算概要

当社の事業セグメント



広告プラットフォーム事業

インターネット広告の効果を最適化



お客様企業



株式会社ロックオン



商流プラットフォーム事業

お店の個性や強みを出しやすい
オリジナルEコマースサイトを支援

2014年9月期通期 業績ハイライト

2014年9月期通期連結業績

広告プラットフォーム事業が完全黒字化。大幅増益を達成。

売上高	営業利益
1,360 百万円 (前年同期比 126%)	249 百万円 (前年同期比 336%)

広告プラットフォーム事業

「THREe」が損益分岐点超え。
今期より完全黒字化を達成。

黒字化

売上高	営業利益
882 百万円 (前年同期比 132%)	141 百万円 (前年同期比 +141百万円)

商流プラットフォーム事業

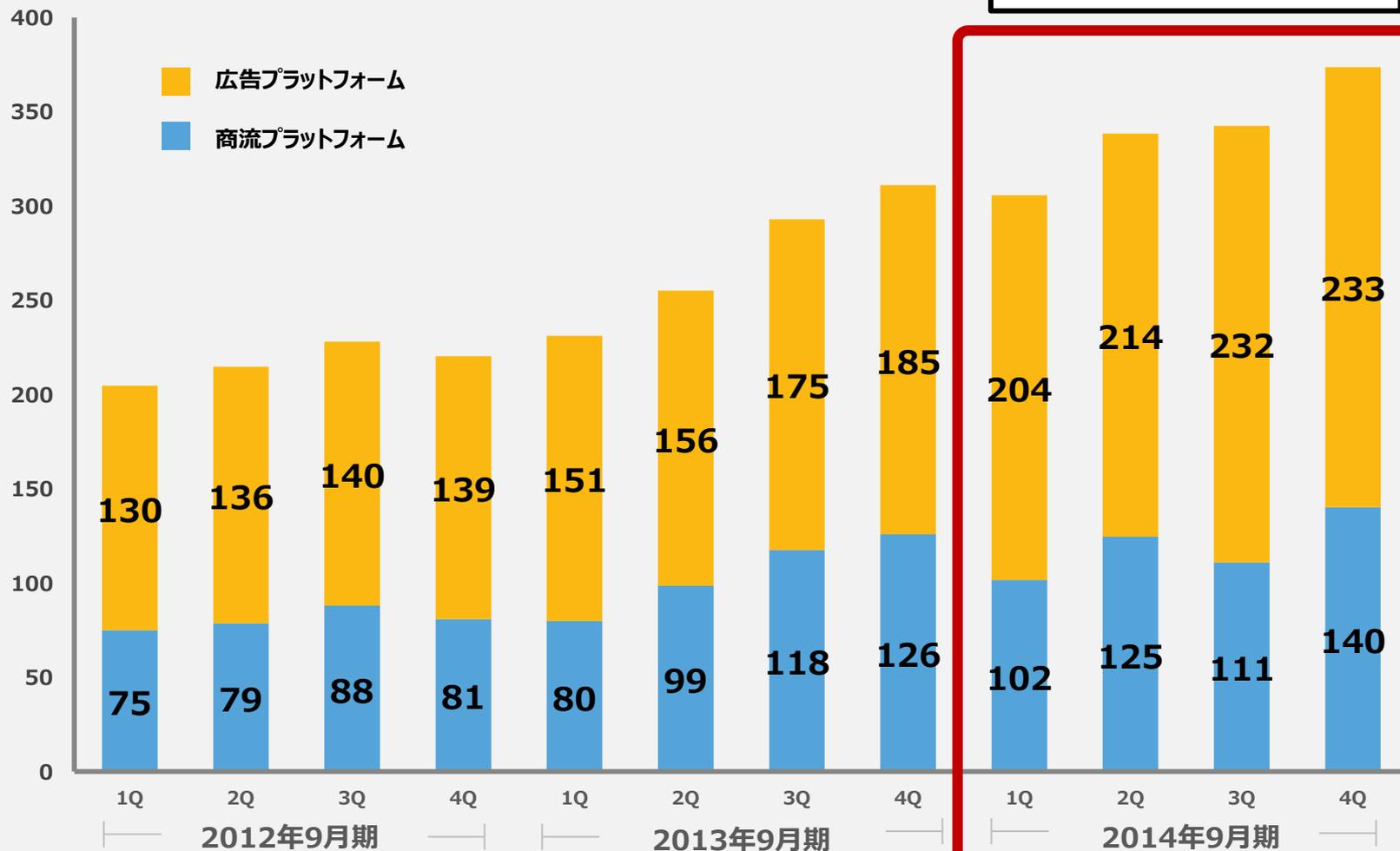
「EC-CUBE」の決済マージンが堅調に推移。

売上高	営業利益
447 百万円 (前年同期比 113%)	107 百万円 (前年同期比 142%)

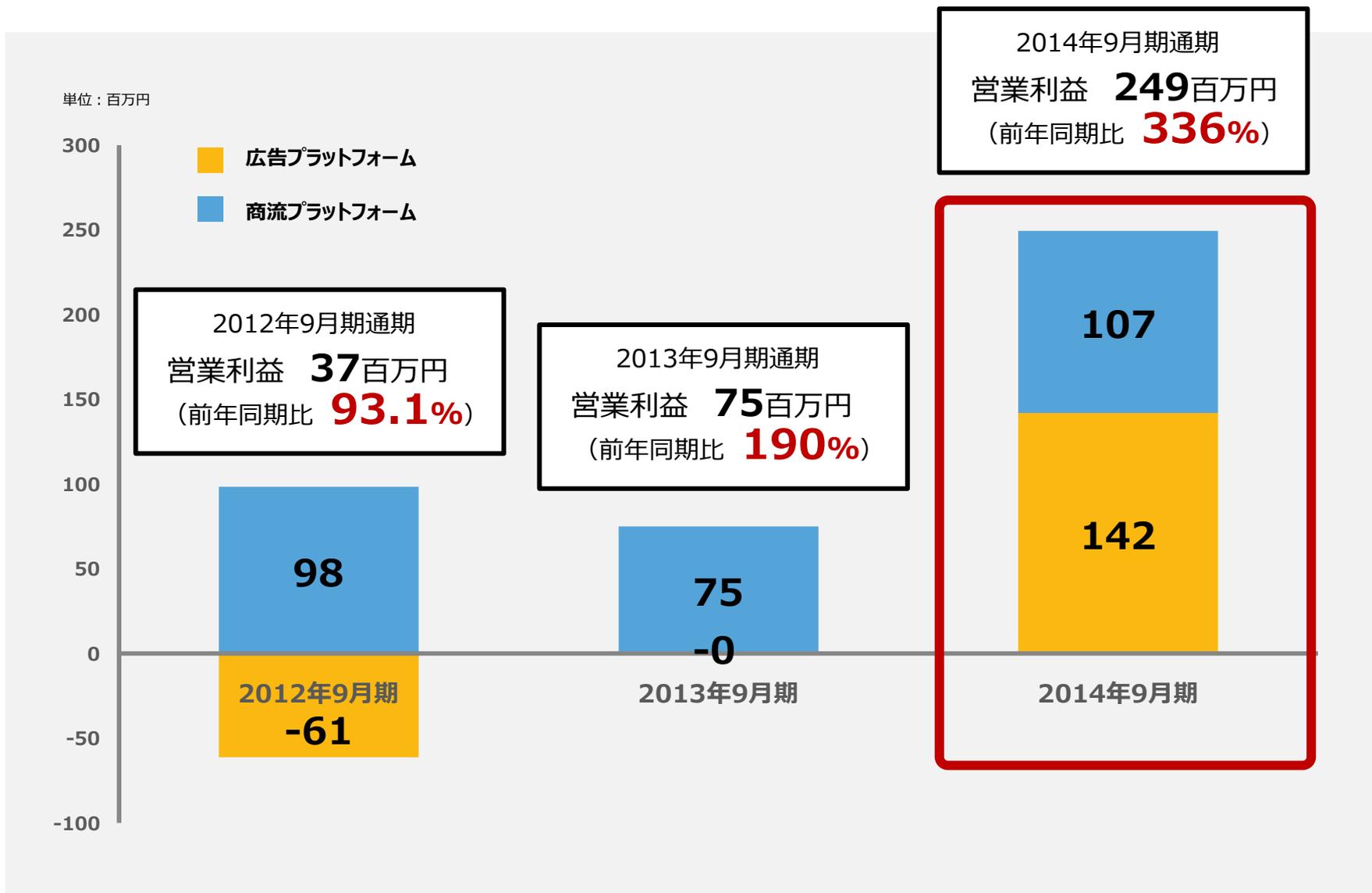
売上高の推移

2014年9月期通期
売上高 **1,360**百万円
(前年同期比 **126%**)

単位：百万円

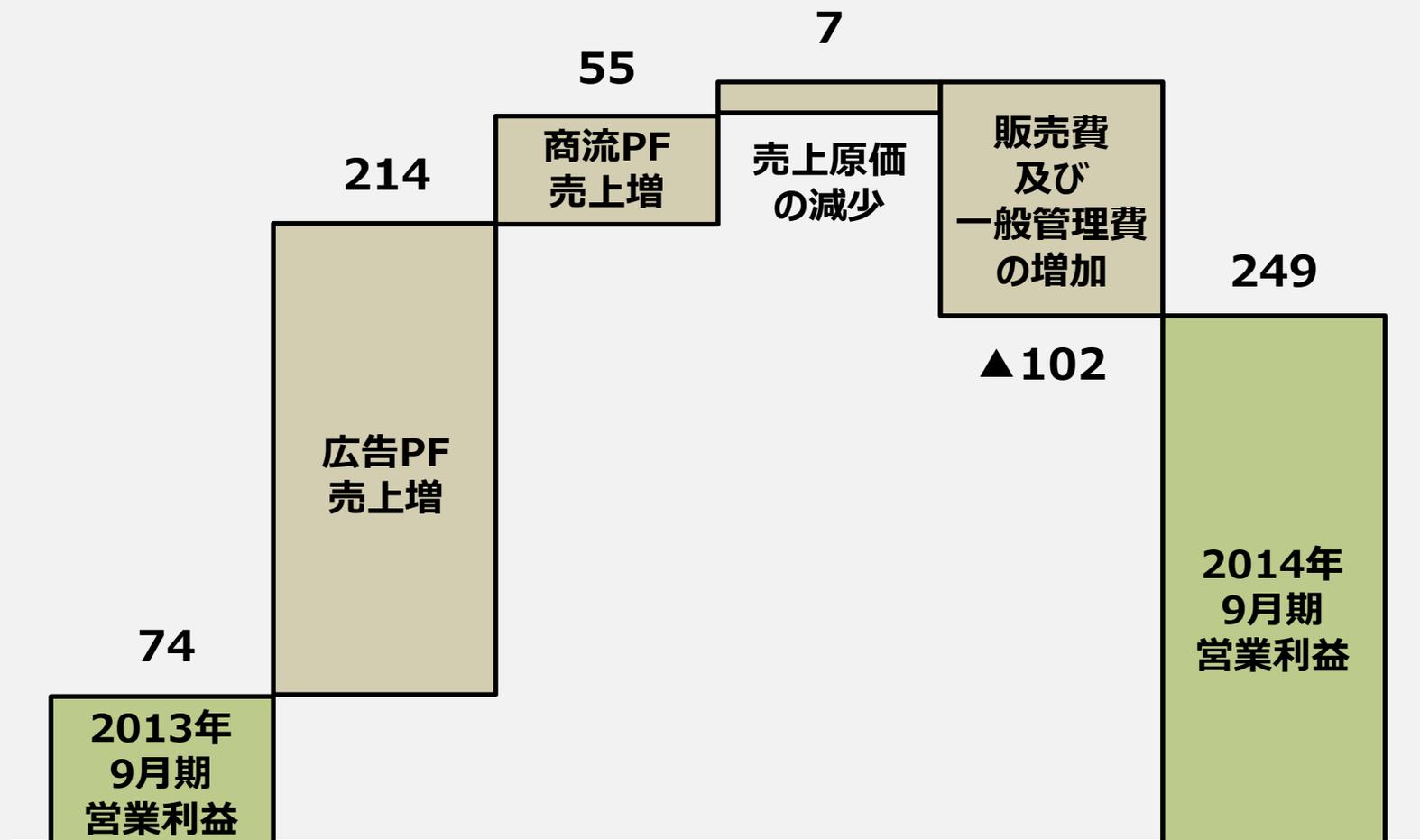


営業利益の推移



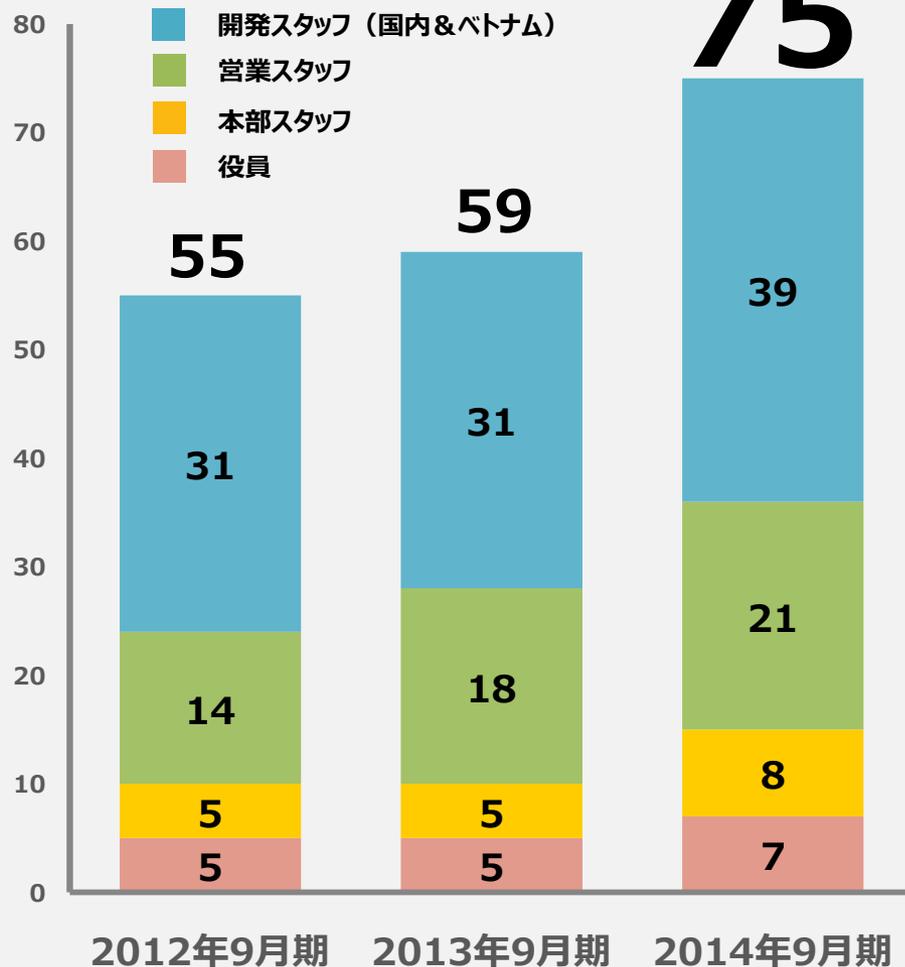
営業利益増減の要因分析（2013年9月期-2014年9月期）

単位：百万円



役職員数の推移

単位：人



Pick UP

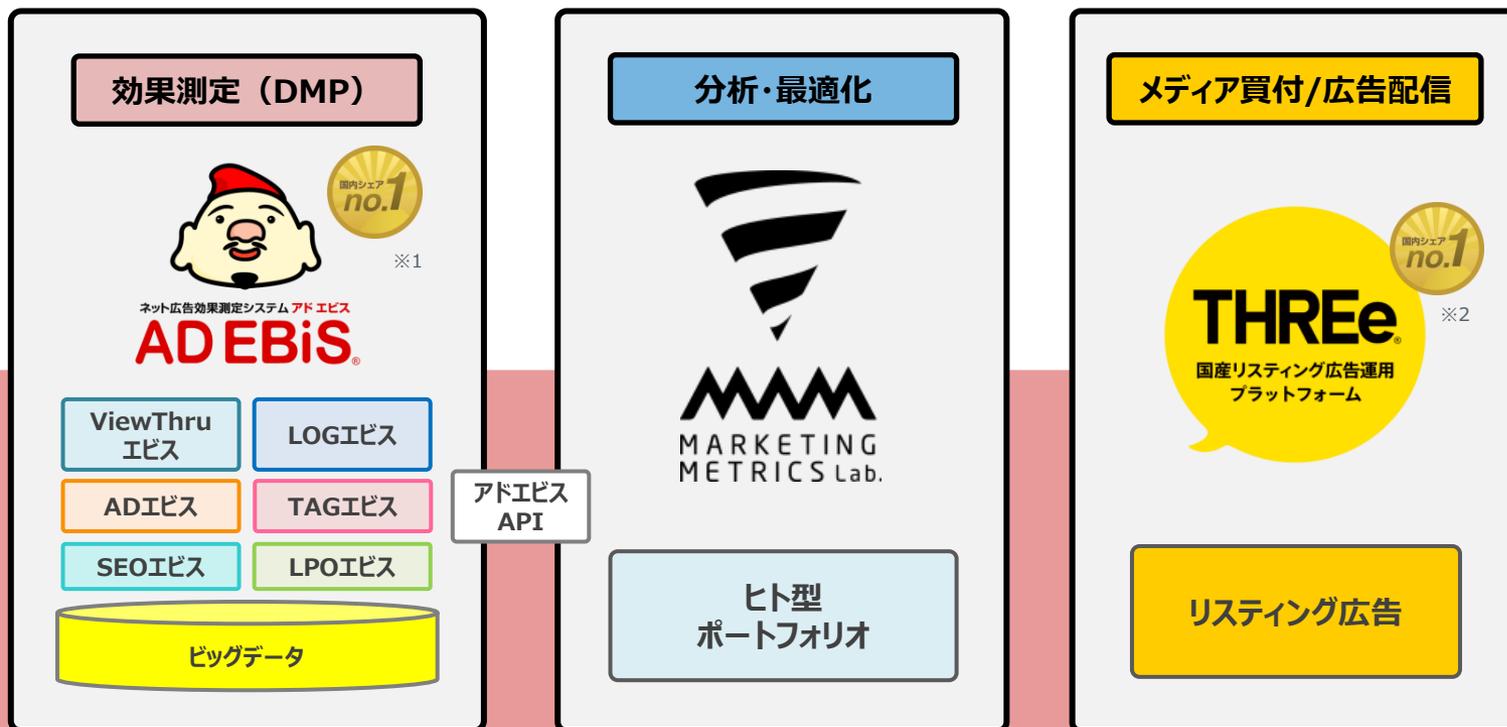
- ✓ ベトナムオフショア拠点を、ラボ型から100%子会社へ切り替え、開発力を強化。

②

広告プラットフォーム フォーム事業



国内No.1広告効果測定^(※1)に加え、広告No.1の配信ソリューション^(※2)により、**広告の効果測定からメディアの買付、配信までを一気通貫で提供。**



(※1) AD EBiSは株式会社シードブランニングによる「広告効果測定ツール市場調査」(2007年8月発表)においてツールベンダーとして国内No.1シェアと認定。

(※2) 株式会社シードブランニングによる「2012年版インターネット広告の市場動向調査」及び、「インターネット広告流通自動化とアドテクノロジー業界の動向調査」(2012年6月発表)において国内リスティング広告最適化システム、国内シェアNo.1と認定。

新しい指標での効果分析。マスメディア領域へ進出。 クロスメディア分析



ストック売り上げ以外の収益強化。
大型データ分析案件の創出。

小林製薬株式会社様

Webからリアル。新しい流れの発見
～マスとデジタルの壁をなくしたクロスチャネル分析
からの気づき～

アイフル株式会社様

更に踏み込んだ分析へ！
「TV」と「Web」の統合分析から見えた事

お客様満足度の向上、新規顧客獲得を担う。 エビス・マーケティング・カレッジ



アドエビスに蓄積された広告業界屈指のビッグデータを分析する技術 開発も進展 マーケティングメトリックス研究所

■ アドエビス内のデータ活用「エビスINDEX」

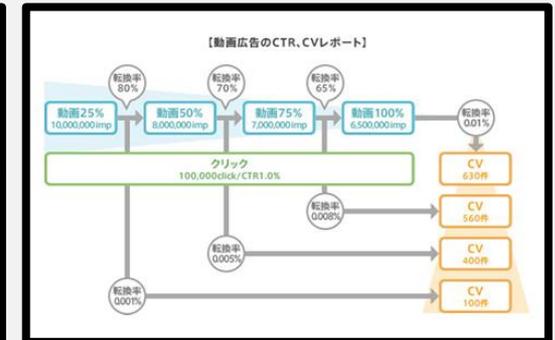
独立行政法人産業技術総合研究所との共同研究



■ 新サービスの開発

エビス・ファイブ

他社連携による新分析レポートサービス

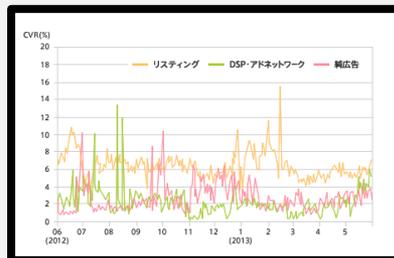
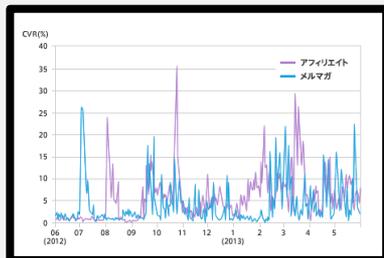


■ データ分析成果発表①有カメディア記事連載

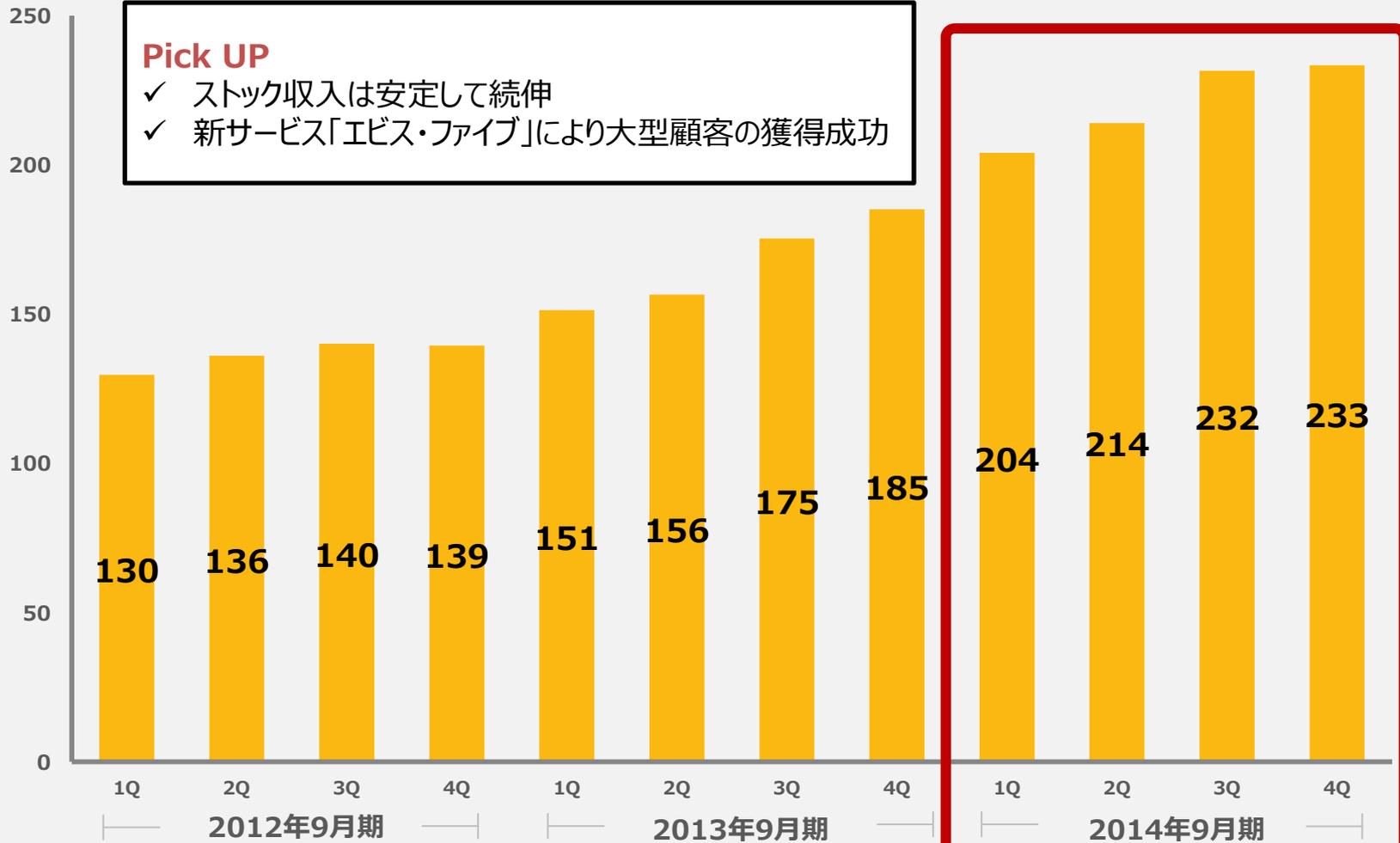
- ・MarkeZine (連載中)
- ・ITメディア マーケティング (連載中)

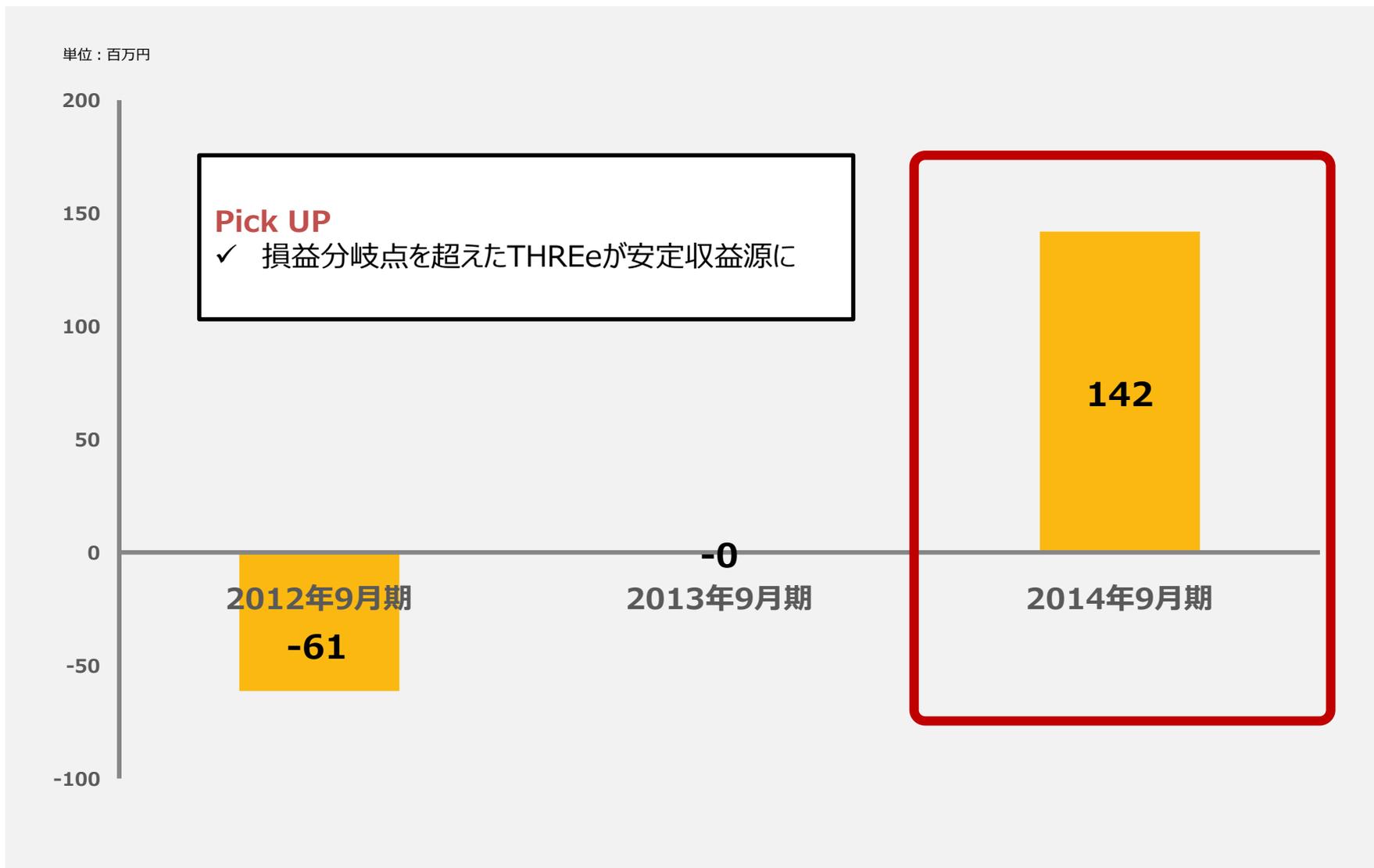
■ データ分析成果発表②セミナー登壇

- ・第一回通販ソリューション展
- ・MarkeZine Day 2014 FUKUOKA
- ・新経済連盟 国内Eコマース市場とデジタルマーケティング
- ・大阪大学 データサイエンティストセミナー
- ・明治大学科学技術研究所公開講演会 2013年、2014年
- ・かながわ産学公連携推進協議会



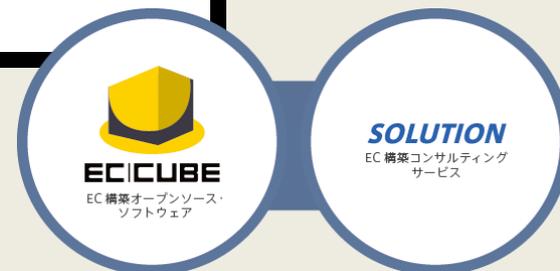
単位：百万円





③

商流プラットフォーム フォーム事業



従来の構築手法と異なる構築手法を提案。
 ECサイト構築は「効率」から「質」を追求する時代となり、
 EC-CUBEは市場ニーズとマッチ。

ダウンロード数

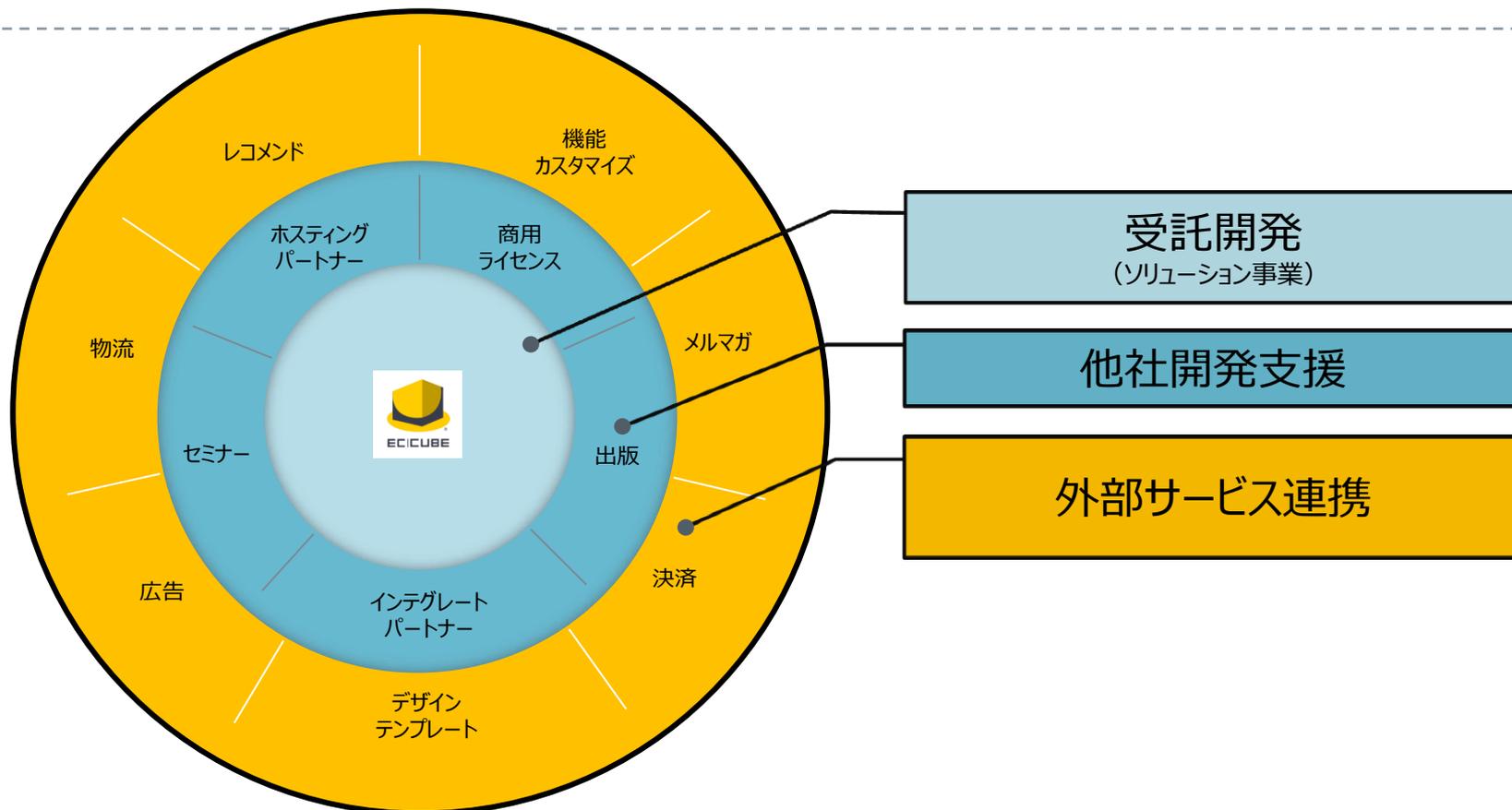
1,700,000以上

推定店舗数

20,000以上



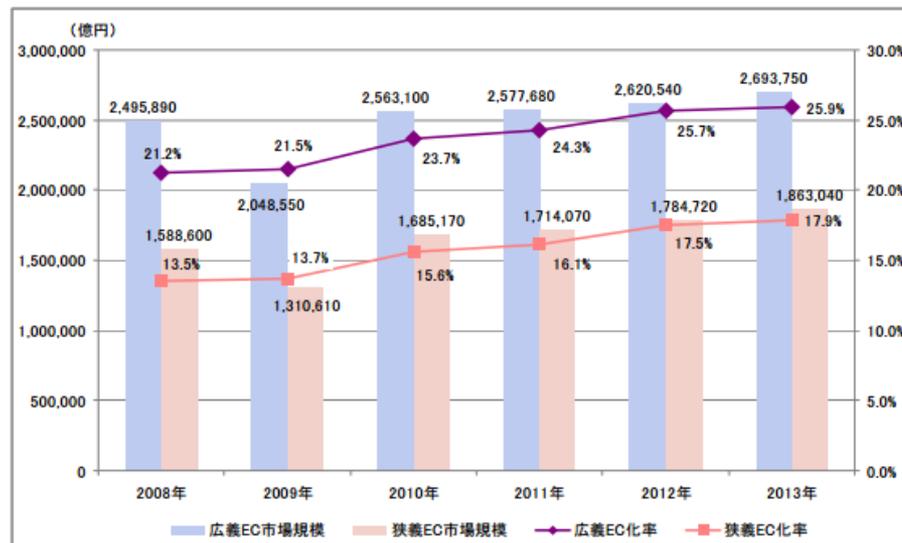
「EC-CUBE」経済圏で稼ぐビジネスモデル。
無料のEC-CUBEの普及にともない、さまざまな**周辺へのニーズ**
が発生。それらを有料で提供する。



BtoCの20倍規模。BtoB市場への進出。 企業間取引専用のECサイト構築パッケージ「EC-CUBE B2B」



図 1-2 日本の BtoB-EC 市場規模の推移



2013年のBtoBのEC市場規模は186兆円、BtoCのEC市場規模は11兆円
(平成 25年度我が国情報経済社会における基盤整備 (電子商取引に関する市場調査) 報告書)

EC-CUBEの認知度が高まり、相次いで大型連携が実現。
連携したそれぞれのプロモーション企画での収益は好調。



日本郵便株式会社
集客・物流

日本郵便株式会社が提供する「ゆうびんポータル」と連携。



ヤマトフィナンシャル株式会社
決済

ヤマトフィナンシャル決済モジュールをEC-CUBEに標準搭載。



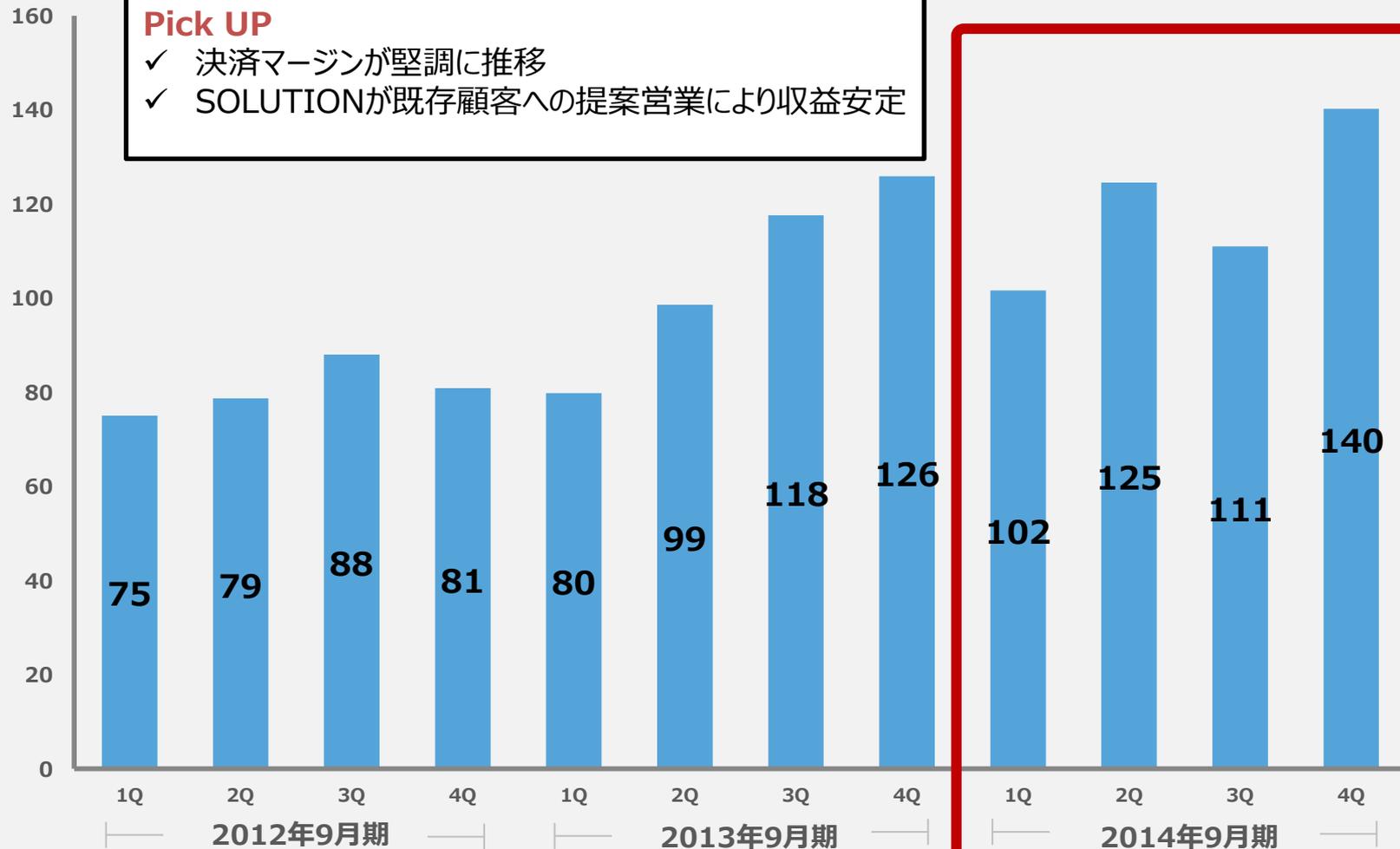
日本マイクロソフト株式会社
クラウドサーバー

専門知識なしで同クラウド上にEC-CUBEをインストール可能。

過去最大規模のイベント「EC-CUBE Day 2014」を開催。
自社イベントとしては過去最高の500人以上が参加。



単位：百万円



単位：百万円

150

100

50

0

Pick UP

✓ 2013年9月期SOLUTIONの体制強化を経て、
今期再び増収基調へ

98

2012年9月期

75

2013年9月期

107

2014年9月期

④

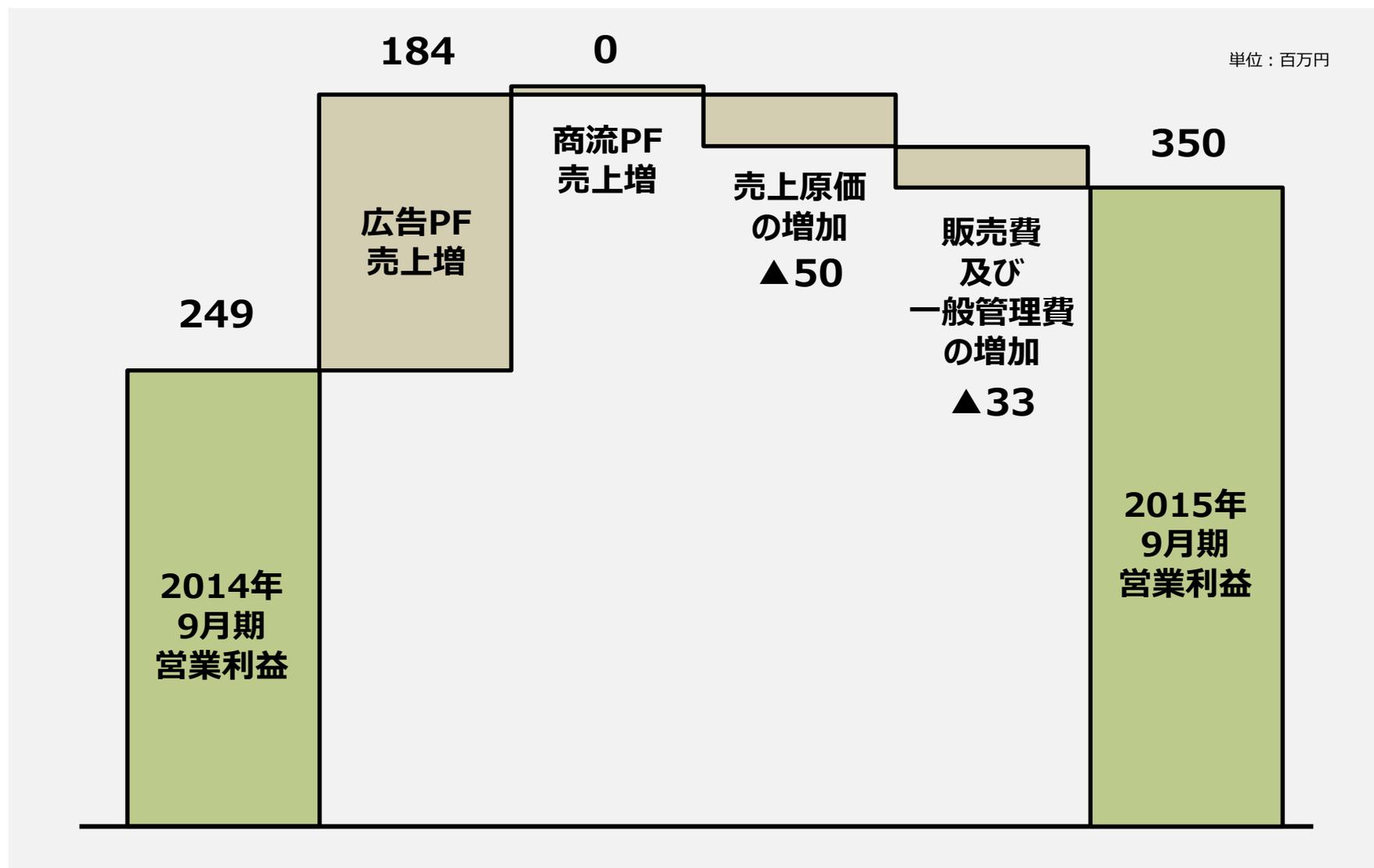
2015年9月期
業績見通し

2015年9月期業績推移予測

単位：百万円

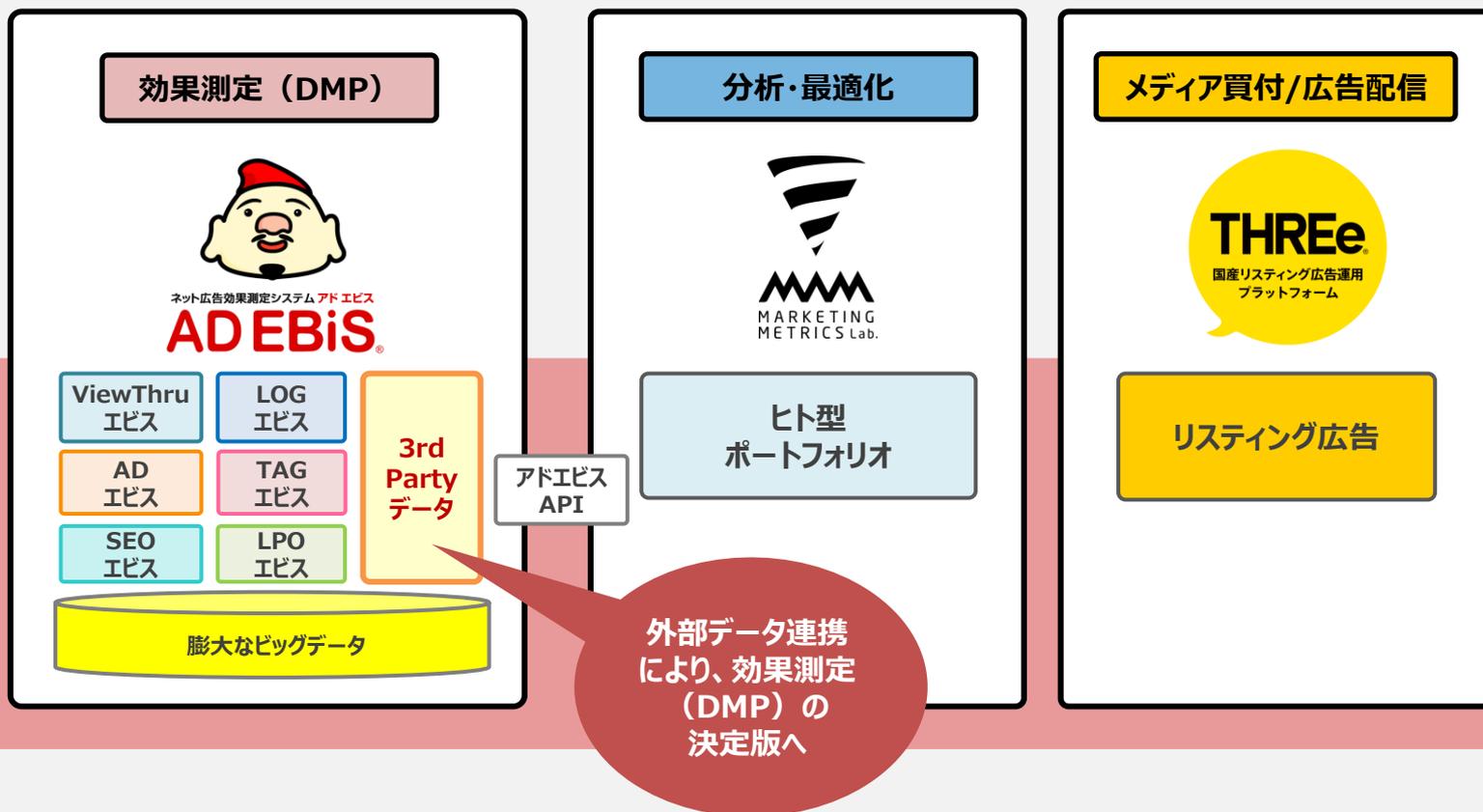
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
第2四半期 (累計)	709	125	125	72	23円24銭
対前年同期 増減率 (2Q)	10.1%	13.3%	12.5%	14.1%	4.0%
通期予想	1,545	350	350	203	64円88銭
対前年同期 増減率 (通期)	13.6%	40.4%	49.9%	47.5%	35.4%

営業利益増減の要因分析（2014年9月期-2015年9月期）



今期の強化分野①

急成長中のアドテク領域へ積極投資。
今期はアドエビスから外部データへのアクセスを強化。可視化プラットフォームを盤石なものに。



今期の強化分野②

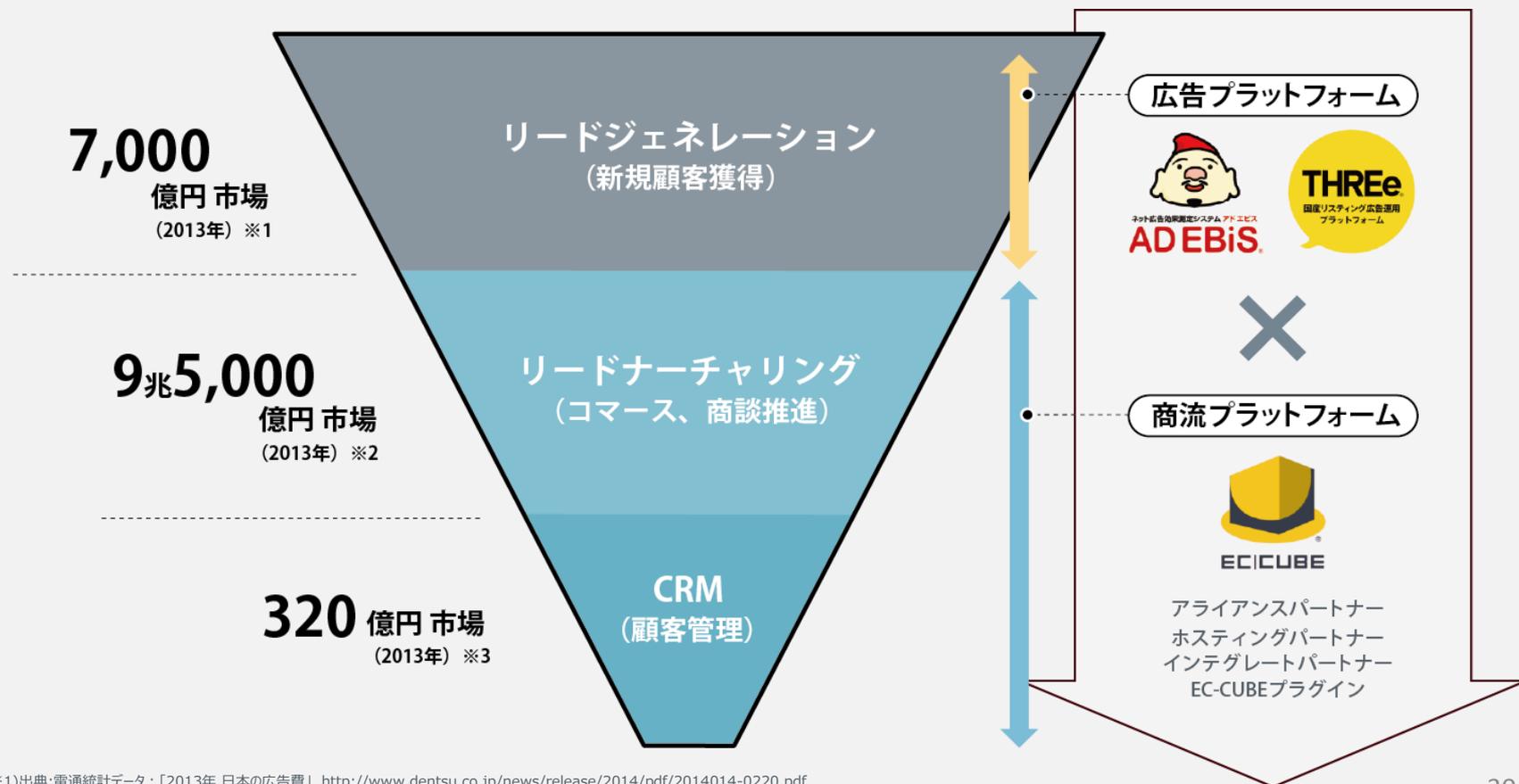
アドエビス DMP事例第一弾 ライオン株式会社様メディア公開。
プライベートDMPは広告プラットフォーム事業と商流プラットフォーム事業の連携により実現。



ライオン株式会社様「Lidea」2014年10月23日公開

今期の強化分野③

プライベートDMPを皮切りに、両事業の連携を強化。
今期、マーケティングオートメーション提供企業としての元年に。



(※1)出典:電通統計データ:「2013年 日本の広告費」 <http://www.dentsu.co.jp/news/release/2014/pdf/2014014-0220.pdf>

(※2)出典:経済産業省「平成24年度我が国情報経済社会における基盤整備 (電子商取引に関する市場調査) 報告書」

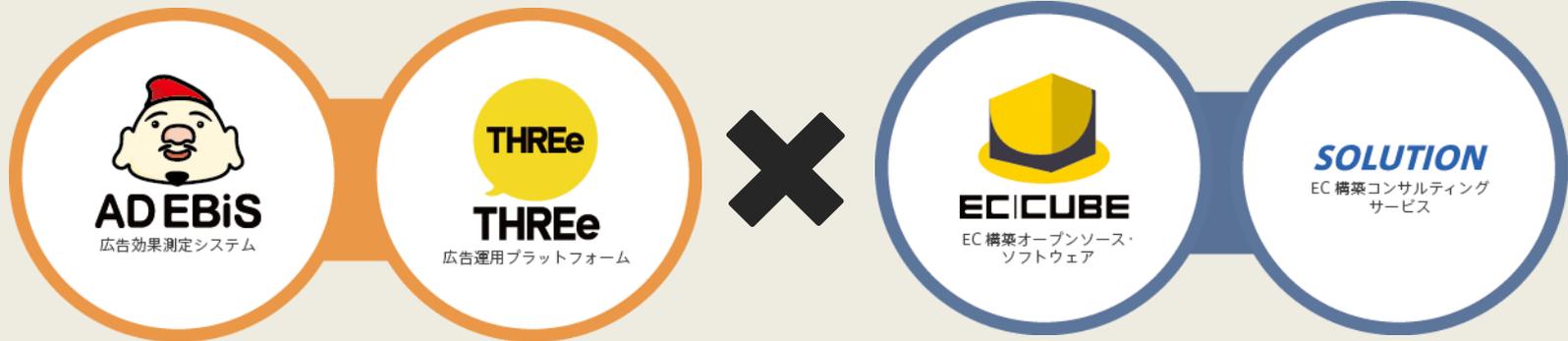
(※3)出典:株式会社矢野経済研究所「2014 CRM市場の実態と展望」

⑤

総括

マーケティングオートメーション元年

アドテク領域へ積極投資。
広告と商流、両事業の連携を強化、マーケティングオートメーション確立へ。



広告プラットフォーム事業

アドエビスから外部データへのアクセスを強化。
可視化プラットフォームを盤石なものに。

商流プラットフォーム事業

EC-CUBE BtoB事業の収益化。
プライベートDMPの横展開。



Impact
On The World.®

參考資料

損益計算書

単位：百万円

	2014年9月末	2013年9月末	増減率 2014年/2013年
売上高	1,360	1,090	24.8%
売上総利益	867	590	47.0%
販売管理費	618	515	19.9%
営業利益	249	74	234.4%
営業利益率	18.3%	6.8%	+11.5points
経常利益	233	75	211.4%
税金等調整前当期純利益	233	75	211.4%
当期純利益	137	42	224.7%

当社は第14期より連結財務諸表を作成しており、第13期は単体財務諸表の数値を記載しております。連結子会社は、平成25年12月に100%出資設立した1社のみであり、第13期の単体財務諸表との比較情報は有用であると考えております。

貸借対照表

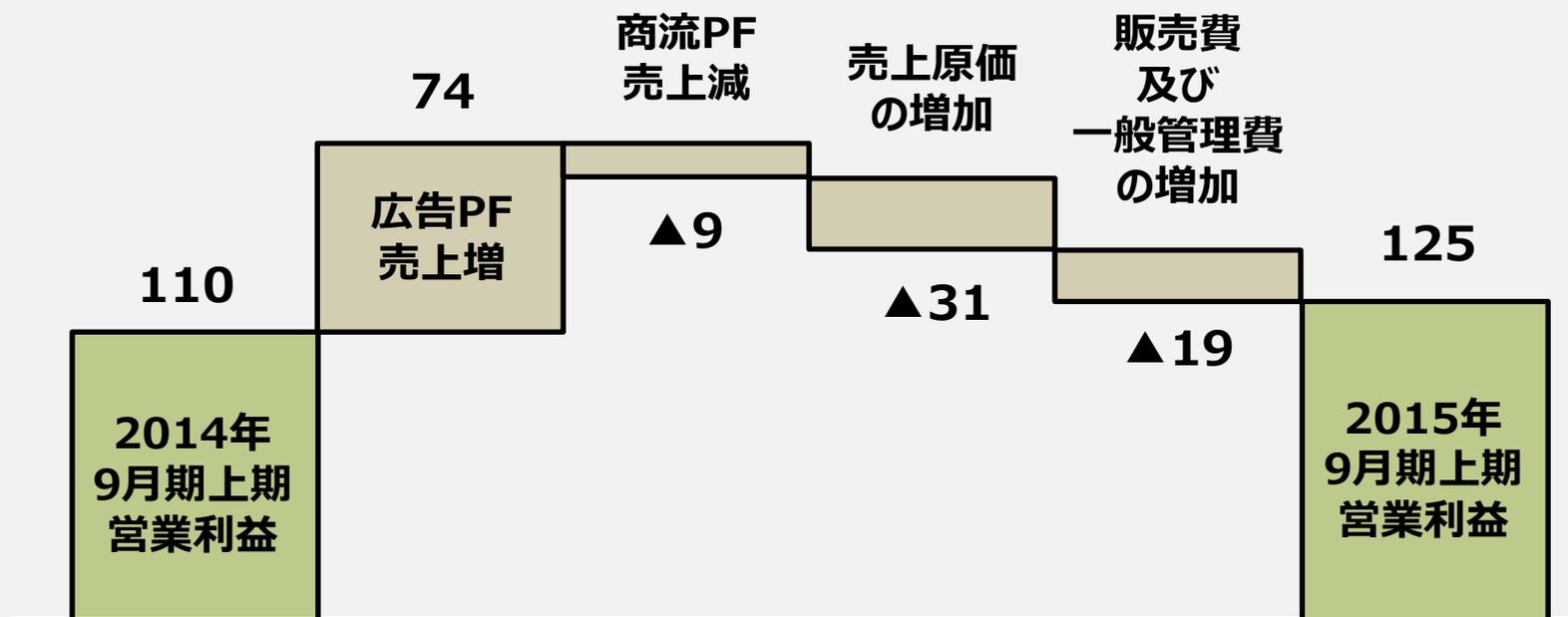
単位：百万円

	2014年9月末	2013年9月末	増減率 2014年/2013年
流動資産	882	325	170.8%
現預金	656	145	351.2%
固定資産	146	144	1.7%
総資産	1,029	470	118.9%
流動負債	222	129	72.1%
純資産	806	340	136.6%

当社は第14期より連結財務諸表を作成しており、第13期は単体財務諸表の数値を記載しております。連結子会社は、平成25年12月に100%出資設立した1社のみであり、第13期の単体財務諸表との比較情報は有用であると考えております。

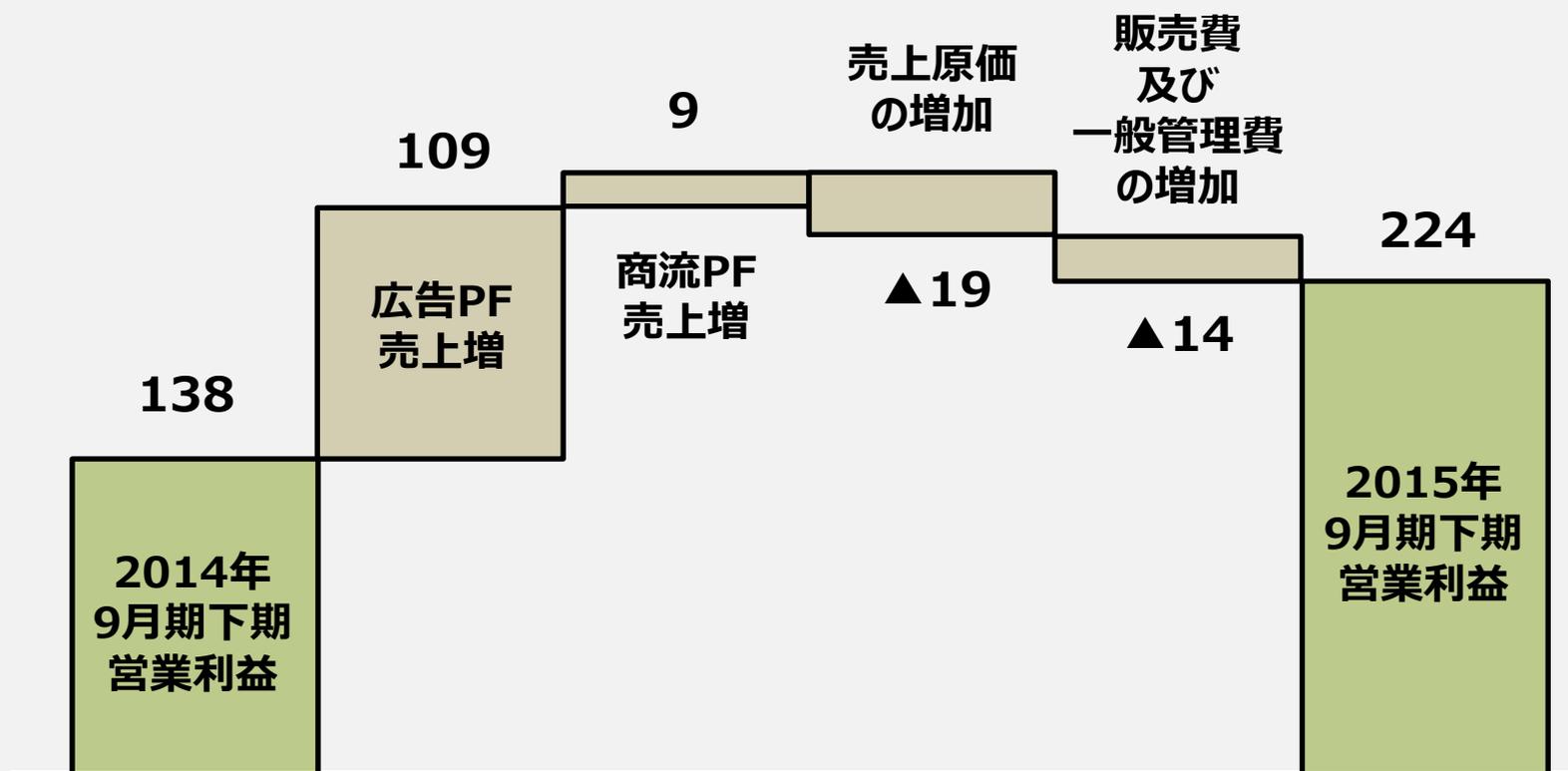
営業利益増減の要因分析 (2014年9月期上期-2015年9月期上期)

単位：百万円



営業利益増減の要因分析 (2014年9月期下期-2015年9月期下期)

単位：百万円



---本資料の取り扱いについて---

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや確実性がありますことを、予めご了承ください。